

3. 小学校指導案様式

〇〇科学習指導案(MSゴシック 14ポイント強調)

令和 年 月 日 () 校時

〇年〇組 男子 名, 女子 名

実習生名 印

指導教諭名

印は名前にかぶせて押印する

1 単元名 (例) まちがえやすい漢字(MSゴシック 10.5ポイント強調)

単元名・題材名など書き方はいろいろあるが、教科(国語や算数等)や領域(特別活動や総合等)によって書き方が違う(「」のあるなし等)ので、その都度指導書等で確認すること。また、表記の仕方は教科書に必ず従って書くこと。上記の単元名を普通にパソコンで変換すると「間違えやすい漢字」となるが、学年該当漢字でなかったり、教材名などで作者が意図的に平仮名を使う場合などがあったりするので気をつける。

2 単元目標(MSゴシック 10.5ポイント強調)

- 基本的には、各教科の観点の順序で書く。
- 教材研究をしっかりとて、意図を持って目標(子どもにつけたい力)を設定する。
- 目標のたて方については、学習指導要領をしっかりと読んで確認する。

3 単元について(MSゴシック 10.5ポイント強調)

(1) 児童観

- ・単元で身に付けさせたい力に対する実態把握について記述する。
- ・どこでどのようなつまづき(課題)があるかを分析し、指導観に記載する手立てと連動するように記述する。
- ・本単元(題材)の学習に直接かかわる児童の実態をできるだけ3観点から考察する。
- ・音楽、図工については、単元・題材によって、1つの領域に重点化するのか、あるいは他の領域に加えて複数領域にするのかを決める。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」は教科の好き嫌いではない。自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意志的な側面を評価する。また、事前調査の結果をそのまま載せるだけではなく、日頃の観察を含めて児童の状況を本単元(題材)の目標に照らして実態を考察する。さらに、レディネステストの結果などから、今までの学習で身に付いている資質・能力を記述する。また、不十分な点についても記述する。

(2) 教材観 ※体育の場合は、①運動の特性②子供から見た動きの楽しさ

- ・単元目標と関連させ、本単元の学習課題を明確にして記述する。
- ・学習指導要領との関連を示す。
- ・単元(題材)の学習内容と、そのねらいを記述する。
- ・適切な単元の構成内容であることを記述する。
- ・本時の教材分析や素材の魅力(体育については運動の特性)についても記述する。

(3) 指導観

- ・子どもの実態(児童観)をとらえ、教材の特性(教材観)を通して子どもにつけたい力や子どもの成長した姿に近づけるための手だてを具体的に書く
- ・教材の特性を見極めながら、一人一人の子どもの学びをどのように高めようとしているのか、具体的

な方法・方向性を述べる。例えば、児童の実態をふまえ、単元目標に迫るために以下の手立てを表記する。

「辞書などの調べ学習を取り入れたい。」

「学習形態を工夫し、ペアやグループ学習を取り入れたい。」

「苦手意識を持つ子が学習に参加できるように、視覚に訴えたゲームを取り入れる。」等指導の意図と目標との整合性を図りながら、単元を貫く指導の方針と方向性について明記する。

・教材を教えるのではなく、教材を通して必要な力をつけることが大切である。

4 指導計画…総時数を明記（単元全体を何時間で取り扱うか）（MS ゴシック 10.5 ポイント強調）

- 年間計画における配当時間に準じて総時数を明記する。
- 配当時間が多い場合は、全体の中に小单元などがあるので「1次」等で表記することがある。
- 学習の流れが分かるようにし、指導観で記載した方法を中心にどこでどんな指導が行われるのかが分かるようにする。
- 本時の授業が指導計画の何時間目に当たるのかを明確に示す。
- 教師の支援の所には本時における教師の手だてや指導上の留意点を記す。
- 評価の所には具体的な評価規準と評価の観点を明確に記す。

時数	○ 主な学習活動	□教師の働きかけ	評価
1	○ 子どもの学習活動について表記するので、主語は子どもになる。よって、語尾が「する」となる場合が多い。	◇教師の働きかけは、主語は教師になる。よって、語尾が「させる」となる場合が多いが、支援のために使役を使わない場合もある。	【評価】本時における評価規準と観点を記す。 ()内は評価方法
2			
3 (本時)	○ 本時の学習活動を具体的に記す。	□本時の指導の手だてや指導上の留意点を記す。	【評価】評価の観点と評価規準を明確に記す。
※本時は、わかりやすいよう太字及び太囲みで表記する。			
4			

5 本時の学習(MS ゴシック 10.5 ポイント強調)

- (1) ねらい…単元目標との整合性を図り、本時におけるねらいを設定する。
- (2) 準備物…使用する教材・教具
- (3) 展開…主に導入・展開・まとめの過程で考える。(45分の時間配分も示す)

過程	学習活動	□教師の働きかけ ○予想される児童の反応	評価規準 【評価の観点】(評価方法)
導入 分	1 問題把握 具体的な学習活動について、児童の立場から記述する。	□教師の働きかけは、子供の思考を深める発問、問い返し、ペアやグループでの話し合いの指示などを書く。また、配慮が必要な児童に対してどのように対応するのかについても書く。	

	算数は、ここの枠に問題を書く。	○予想される児童の反応は、発問に対する児童のつぶやきや動き、内面の様子等を予想して書く。
展開分	2 めあて	
	まとめに正対し、子供の視点に立っためあてにする。	
	<p><展開での工夫例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業のめあて、身に付けさせたい力を明確にする。 ・授業のめあてに正対したまとめ、学習の振り返りを行う。 ・書く活動や児童がかかわり合う活動を取り入れる。 ・ペア学習やグループ学習等、学習形態の工夫を取り入れる。 ・ICT を活用した授業の工夫を行う。 ・教科を横断した視点での授業の工夫を行う。 	
まとめ分	5 まとめ	
	めあてと正対したまとめについて記述する。今日の授業で何を学んだかを明確にする。	
	6 ふりかえり	
	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習で分かったことやできるようになったこと、次の課題などについて、児童に振り返らせる。 ・本時の目標や単元の展開等から児童から引き出したい振り返りを明確にする。 	<p>【 】には評価の観点を書く。 評価規準については、概ね満足できる姿（観点別評価 B）を評価する欄に記述する。 （ ）には、行動観察やノート分析等の評価方法を書く。</p>

(4) 板書計画

- 板書は第二の指導案といわれるほど大切である。授業の流れが分かり、子どもの思考や学びの課程が分かるような板書が大切である。
- 短冊の使い方や色使いなども重要な板書の構成要素なので、どのように使うかをイメージするためにも、板書計画は丁寧に書く。

<指導案記述上の留意事項>

- ・数字は大きな項立てから I, 1, (1), ①の順に使っていく。
- ・英数字は半角，全角の決まりはないが，どちらかに統一して記述し，混在させない。
- ・余白は上・下・左・右いずれも 20mm とる。
- ・文字，行数は詰め込み過ぎると読み難くなるので注意する。（この頁は 40 字 44 行で設定）
- ・ページ番号を入れる。
- ・作成はパソコンで行う。（文字の大きさや行間が揃い読みやすい。また修正が容易）
- ・字体は MS 明朝体，ポイント数は 10，5 ポイントを基本。
- ・各項目は，MS ゴシック 10.5 ポイント強調。
- ・指導案名は，MS ゴシック強調 14 ポイント。
- ・特殊なフォントは使わない。（MS 明朝，強調は可）